

福井県大野市方言



福井県方言区画図

【福井県の方言区画】福井県内の方言は最も大きく分けて、県北東部（嶺北地方）の嶺北方言と県南西部（嶺南地方）の嶺南方言に二分される。その方言境界は南条郡南越前町と敦賀市の市町境にほぼ一致する。東条操（1954）の方言区画によれば、嶺北方言は北陸方言、嶺南方言は近畿方言に分類され、嶺南方言の方がより近畿方言との共通性が強い。両方言の相違点を挙げると、語彙面では《塩辛い》の意を表す語がクドイ（嶺北）かカライ（嶺南）か、また《出した》などにサ行イ音便が生じるか生じないか（ダイタ（嶺北）かダシタ（嶺南）か）、音韻面では語中のガ行子音が鼻音[ŋ]（嶺北）か破裂音[g]（嶺南）か等の対立がある（加藤和夫 1992）。

さらに嶺北方言は福井平野を中心とした嶺北西部方言と、嶺北東部方言に大きく分けられる。音韻面では、アクセント体系が大きく異なっており、西部は単語にアクセントの区別がないいわゆる無型アクセントの分布が優勢であるのに対し、東部の山間地にはアクセントの区別が明瞭な方言が分布している。語彙面では、《居る》の意でイル（西部）を用いるかイルとオルを併用（東部）するか、尊敬語の形式がナル（西部）かナハル（東部）か等の違いがある（ただしあわら市北部など嶺北西部でもオルが使われる地域はある。またナハルは嶺北西部の南半でも聴かれる）。

【大野市方言について】福井県大野市は、嶺北地方東部（奥越地方）の山あい広がる大野盆地と周辺の山地からなる面積 872km²、人口 34,358 人（2017 年 1 月 1 日時点）の市である。市街地は 400 年以上前から大野藩の城下町として栄え、現在は北陸の小京都と称される街並みを残す県内屈指の観光地としての賑わいも見せている。

現在の市全域が嶺北東部方言の分布域に属する。ただし本稿で言う大野市方言とは、現在の市和泉地区（旧大野郡和泉村。2005 年に大野市に編入）を除く旧大野市内の方言を指す。大野市東部の和泉地区は、方言全体として、東に境を接する岐阜県方言との共通性が色濃く（アクセント体系も旧大野市側とは異なり岐阜県側と同じ東京内輪式である）、旧大野市方言とは異なる方言圏に属するとみならず。

大野市方言の特色の一つとして、本稿に関連する所では「尊敬語・丁寧語表現の豊かさ」が挙げられる。天野義廣(1997)「福井県大野市方言の待遇表現」にまとめられている通り、大野市方言には様々な敬語形式の発達が認められる。

【表記について】語中のガ行子音はいわゆる鼻濁音[ŋ]であるが、本稿では特に語頭の破裂音[g]と表記を分けてガ、ギ、グ…と表記する。

【調査概要】本稿の記述は大野市本町生まれの 1945 年生女性話者への聞き取り調査に基づく。出典の記載のない例文は聞き取り調査を通じて得られたものである。その他の用例は 2006 年刊行の『大野市史 第 12 巻 方言編』より引用した。この市史には各例文がどの集落で採集されたものであるかが逐一明示されており、本稿では[市史(集落名)]のように例文が採集された集落名をカッコ内に入れて示す。

福井県大野市方言の活用表

《動詞》

		多段型 書く	一段型 見る	来る	する
終 止 類	断定非過去	カク	ミル	クル	スル
	断定過去	カイタ	ミタ	キタ	シタ
	命令	カキネ △カキネヘー カケ	ミネ △ミネヘー ミー ミヨ	キネ △キネヘー コイ	シネ △シネヘー セー
	禁止	カキナハンナ カクナ	ミナハンナ ミルナ ミンナ	キナハンナ クルナ クンナ コンナ	シナハンナ スルナ スンナ
	意志・勧誘	カコ	ミヨ	コー	ショ (一)
	推量	カクヤロ	ミルヤロ	クルヤロ	スルヤロ
接 続 類	連体非過去	カク	ミル	クル	スル
	連体過去	カイタ	ミタ	キタ	シタ
	中止	カイテ	ミテ	キテ	シテ
	仮定	カイタラ カケバ △カキヤ	ミタラ ミレバ △ミリヤ	キタラ クレバ	シタラ スレバ
派 生 類	否定	カカン	ミン	コン	セン
	丁寧	カキマス △カケ (一) ス △カケンス	ミマス △ミエス	キマス △ケース	シマス △セース
	使役	カカス カカセル	ミサス ミサセル	コサス コサセル	サス サセル
	受身	カカレル	ミラレル	コラレル	サレル
	可能	カケル	ミレル	コレル	《デキル》
	尊敬	カキナハル カキナル	ミナハル ミナル	キナハル キナル	シナハル シナル
	継続	カイテル	ミテル	キテル	シテル
	希望	カキタイ	ミタイ	キタイ	シタイ
	のだ	カクンヤ カクンニヤ	ミルンヤ ミルンニヤ	クルンヤ クルンニヤ	スルンヤ スルンニヤ
	不必要	カキネバン	ミネバン	キネバン	シネバン

多段型動詞の基幹音便形

語幹末子音	語例	活用形例(過去形)	作り方
k	書く kak・u	カイ-タ	kをiにする。「行く」ik・uはkをQ(促音)にし「イッ-タ」。
g	嗅ぐ kag・u	カイ-ダ	gをiにする。-タが-ダになる。
s	出す das・u	ダイ-タ ダシ-タ	sをiにする形と基幹イ段形の併用。「押す」「消す」「足す」など音便形をとらない動詞もある。
t/c	立つ tac・u	タッ-タ	t/cをQ(促音)にする。
n	死ぬ sin・u	シン-ダ	nをN(撥音)にする。-タが-ダになる。
b	飛ぶ tob・u	トン-ダ	bをN(撥音)にする。-タが-ダになる。
m	飲む nom・u	ノン-ダ	mをN(撥音)にする。-タが-ダになる。
r	切る kir・u	キッ-タ	rをQ(促音)にする。
w/ø	買う ka(w)・u	コー-タ	wはø(子音なし)に。wの前の母音がaの場合はoに変える。基幹が1拍の場合は長音化する。

《形容詞・形容名詞述語・名詞述語》

		赤い	静か(だ)	学生(だ)
終止類	断定非過去	アカイ	シズカヤ	ガクセーヤ
	断定過去	アカカッタ	シズカヤッタ	ガクセーヤッタ
	推量	アカイヤロ	シズカヤロ	ガクセーヤロ
接続類	連体非過去	アカイ	シズカナ	《ガクセーノ》
	連体過去	アカカッタ	シズカヤッタ	ガクセーヤッタ
	中止	アコ(一)テ	シズカデ	ガクセーデ
	仮定	アカカッタラ	シズカヤッタラ シズカナラ	ガクセーヤッタラ ガクセーナラ
派生類	否定	アコ(一)ナイ	シズカデナイ	ガクセーデナイ ガクセートチガウ
	なる	アコ(一)ナル	シズカンナル	ガクセー>NNナル
	丁寧	アカイデス アコゴイス	シズカデス	ガクセーデス
	のだ	アカインヤ アカインニヤ	シズカナンヤ シズカナンニヤ	ガクセーナンヤ ガクセーナンニヤ

1. 動詞の活用の特徴

(1) 活用型と語類の対応

規則的な活用型には基幹多段型(以下「多段型」と基幹一段型(以下「一段型」)がある。多段型にはa類(「書く」・「居る」・「死ぬ」類)動詞、一段型にはb類(「見る」・「起きる」・「開ける」類)動詞が所属する。多段型の基幹にはア・イ・ウ・エ・オ段の5形、および、音便形がある。融合によってア段拗音となることもある。「カク」(書く)の場合、カカン(kak・a-N)、カキタイ(kak・i-tai)、カク(kak・u)、カケ(kak・e)、カコ(kak・o)、カイ-タ(kai-ta)、カキャ(kak・ja)など。また、語幹末子音には、k(カ

行)、g(ガ行)、s(サ行)、t(タ行)、n(ナ行)、b(バ行)、m(マ行)、r(ラ行)、w(ワ行)がある。

語例は、表「多段型動詞の基幹音便形」を参照。一段型には、ミ-ル(mi-ru)、オキ-ル(oki-ru)など基幹がイ段の動詞と、ネ-ル(ne-ru)、アケ-ル(ake-ru)など基幹がエ段の動詞がある。

不規則な活用をする動詞に「クル」(来る)と「スル」(為る)がある。ともに一段型に近い活用をするが、「クル」は、キ-タ(k・i-ta)、ク-ル(k・u-ru)、コ-ン(k・o-N)などのように、基幹が「キ」「ク」「コ」の3段にわたる。ただしケース(keRsu)のように母音の融合(k・i-esuが融合前の形か)によってエ段と

なることもある。「スル」は、サ-レル (s·a-reru)、シ-タ (s·i-ta)、ス-ル (s·u-ru)、セ-ン (s·e-N) などのように、基幹が「サ」「シ」「ス」「セ」の4段にわたる。さらに、ショ (一) (s·jo(R)) のように融合によりオ段の拗音となることもある。

「スル」にはウ段の基幹「ス」が「シ」に換わる語形もある。すなわち断定・連体非過去形が「シル」となり、非過去形を基本として作られる活用形(禁止形、推量形、のだ形)もそれぞれシルナ(シンナ)、シルヤロ、シルンニヤとなる。これらは大野市を含め嶺北地方に広く分布する語形であるが(『大野市史』にも「シル」を含む文例が多く見られる)、本稿の話者には耳慣れない語形であるとのことで、活用表には記載しないこととした。一般に若い世代ほどシルが(共通語形の)スルに置き換わる傾向にあるとみられる。

(2)各活用形の特徴

〈断定非過去形〉

断定非過去形は連体非過去形と同形で、「書く」など多段型動詞はウ段基幹(「カク」)、「見る」など一段型動詞は基幹+ル(「ミル」)、「来る」「する」はウ段基幹+ル(「クル」「スル」)となる。

〈断定過去形〉

断定過去形は連体過去形と同形で、多段型動詞の基幹音便形、一段型動詞の基幹、「来る」「する」のイ段基幹に「タ」を付した形となる。ただし語幹末子音が g, n, b, m であれば-タは-ダになる。

- ・アコノヤシキ スッポリ コータ。(あそこの屋敷を丸ごと買った。)[市史(開発)]
- ・ビール ツルツルイッパイニ ツイダナー。(ビールをくコップに>あふれんばかりに ついだなあ。)[市史(牛ヶ原)]

〈命令形〉

命令形には大きく分けて2つの語形がある。1つは多段型動詞がエ段の基幹(「カケ」)、一段型動詞が基幹+長音または「ヨ」(「ミー」「ミヨ」)、「来る」「する」が「コイ」「セー」となる語形である。これらはかなりぞんざいな言い方で、主に男性が用いる。これらの命令形については『大野市史』も「男親が子供に命じたり、相当強い気持ちで相手に要求したりする場合」(『市史』p.404)に用いるとする。

- ・ナニ シヤガル。ハナシエ。(何をしやがる。<その手を>離せ。<けんかの場面>)[市史(牛ヶ原)]
- ・アマド イッポン アケヨー。(雨戸を1枚開ける。)[市史(牛ヶ原)]
- ・ハヨ キガエテコイ。(早く着替えて来い。)[市史(平沢地頭)]

より広く用いられる命令表現は、一段型動詞の基幹、または多段型動詞及び「来る」「する」のイ段基幹に「ネ」を付けた「カキネ」「ミネ」「キネ」「シネ」等の語形である。なおさらにこれに「ヘー」が続いた「カキネヘー」「ミネヘー」「キネヘー」「シネヘー」等の語形もある。「ヘー」が続く形は、本稿の話者自身は使わないが、「古くは聞いた」「市街地周辺の農村部では聞かれる」とされる形である。

- ・ハヨ テガミ カキネノ。(早く手紙を書きなさいよ。)
- ・マン タバテミネヘー。イッペン。(まずは食べてごらんさい。一度。)[市史(稲郷)]

〈禁止形〉

禁止形にも命令形と同様にぞんざいな表現とより丁寧な表現の2つがある。前者は非過去形に「ナ」を付けた形である。ルに終わる非過去形はルが撥音化する場合もある。また「来る」については否定形「コン」に「ナ」が付いた形「コンナ」も可能。

- ・キョートイ コエ ダスナ。(くいきなり>びっくりするような声を出すな。)[市史(御給)]
- ※キョートイ：突拍子もない
- ・コライ チョカチョコカシンナ。(こらっ そわそわするな。)[市史(稲郷)]

より丁寧な表現は、多段型動詞と「来る」「する」のイ段基幹または一段型動詞の基幹に「ナハンナ」を付して作る。これは後述の尊敬形「-ナハル」に禁止の「ナ」を続けた形であり、形式的には尊敬形そのものであるが、話者によれば特に敬意が込められた表現ではない(非過去形+ナほどぞんざいではないにしても、「敬語」とは感じられない)という。子供に対しても用いられる、最も一般的な禁止命令表現である。

- ・アホナコト シナハンナ。(馬鹿なことをするな。)
- ・テカテカニ コーテッデ コロビナハンナヤ

一。(く道が雪で>つるつるに凍っているから、転びなさるなよ。)[市史(友江)]

〈意志形・勧誘形〉

多段型動詞はオ段の基幹(「カコ」)、一段型動詞は基幹に「ヨ」を付けた形(「ミヨ」)、「来る」は「コー」、「する」は「ショ(一)」となる。

- ・イマカラ シゴト {ショ/ショー}。(今から仕事しよう。)(意志または勧誘)
- ・ヨサリ ツメキルノワ ワリーチューデ キロトモタケド オココ。(夜に爪を切るのは<災いを招くから>悪いというから、切ろうと思ったけどやめようか。)[市史(友江)]
- ・トットイテ アトデ オンボリ タベヨ。(今<は>しまっておいて、後でゆっくりと味わって食べよう。)[市史(明倫町)]

動詞自体の形は意志形と勧誘形で同形であるが、終助詞「サ」と共起した場合は勧誘形の解釈のみ可能となる。

- ・モーチョット ココニ イヨサ。(もう少しここにしようよ。)
- ・モー ヤメヨサ。(もうやめようよ。)[市史(稲郷)]

〈推量形〉

推量形は非過去形に「ヤロ」を続けた形である。否定形に「ヤロ」が付けば否定推量、過去形に付けば過去推量を表す。

- ・アシタワ ハレルヤロ。(明日は晴れるだろう。)[市史(下打波)]
- ・メトンボヤナー。ソコニアルヤロガ。(目が利かないなあ。そこにあるだろうが。)[市史(牛ヶ原)] ※メトンボ：探し物を見つけるのが下手なこと

〈連体非過去形〉

上述のとおり、断定非過去形と同形である。

〈連体過去形〉

上述のとおり、断定過去形と同形である。

- ・ハサネ カケタ コメワ オイシーガノー。(稲架に掛けた米はおいしいけれどねえ。)[市史(牛ヶ原)]

〈中止形〉

多段型動詞の基幹音便形、一段型動詞の基幹、「来る」「する」のイ段基幹に「テ」を付した形となる。

ただし語幹末子音が g, n, b, m であれば-テは-デになる。過去形の-タ(-ダ)を-テ(-デ)に置き換えた形に等しい。

- ・シラミ ワイテ カインニヤ。(しらみが発生して、痒いんですよ。)[市史(今井)]
- ・ハナイケノミズア シミテ ワレタ。(花瓶の水が凍って、<花瓶が>割れた。)[市史(森本)]

〈仮定形〉

仮定形には3つの形がある。1つ目は、多段型動詞の基幹音便形・「来る」「する」のイ段基幹および一段型動詞の基幹に「タラ」を後接させた形、2つ目は、多段型動詞のエ段基幹に「バ」、一段型動詞の基幹及び「来る」「する」のウ段基幹に「レバ」を付けた形、あと1つは、多段型動詞の拗音ア段基幹(「カキヤ」)、一段型動詞の基幹+リヤ(「ミリヤ」)の形である。ただし、反事実的条件文(もし~すれば…なのに)でも仮定条件文(～すれば…だろう)でも「タラ」形が最も優勢で、特に「カキヤ」等の形は使われにくい場合が多いようである。

- ・キンノウチニ デンワ {シタラ/スレバ/シトケバ/×スリヤ} ヨカッター。(昨日のうちに電話すればよかったな。)
- ・キョーノ シンプン {ミタラ?/ミリヤ} カイテアル。(今日の新聞を見れば書いてある。)
- ・チョット ウラネモ ユーテオクレリヤ ヨーゴイシタノニー。(ちょっと私にも、いつてくださればようございましたのに。)[市史(下舌)]

「カキヤ」「ミリヤ」等の形については、文例豊富な『大野市史』にも上記の1例の他には主に以下のような恒常条件文(～すれば必ず…)が見つかるのみである。

- ・ヒマサエ アリヤ サカナツリニ イキタガ ルンデ ドームナラン。(暇さえあれば魚釣りに行きたがるので、どうにもならない。)[市史(下舌)]
- ・シゴトムシャ シゴトサエ シテリヤ エーンニヤ。(仕事虫<と言われる人>は仕事さえしていれば満足なのだ。)[市史(犬山)]
- ・ナキサエ スリヤ モノニナルトモテ[後略]。(泣きさえすれば自分の思い通りになるか

とって〔後略。〕〔市史(犬山)〕

いずれの例も条件節に「さえ」を含む点、注目される。仮定形の3つの形にどのような使い分けがあるかといった詳細については未調査である。

〈否定形〉

多段型動詞のア段基幹、一段型動詞の基幹、「来る」のオ段基幹、「する」のエ段基幹に「ン」を接続させて作る。ただし一段型動詞「イル」(居る)の否定形は不規則的に「エン」となる。否定形は以下のように活用する。

非過去形 カカン
過去形 カカナンダ
推量形 カカンヤロ
中止形 カカント
仮定形 カカナ、カカナンダラ
なる形 カカンヨーンナル

- ・ウララ ナーモ シラナンダ。(私など、何も知らなかった。)[市史(牛ヶ原)]
- ・コレワ フクイマデ {イカント/イカナ}
ウットランザ。(これは福井まで{行かないと/行かなければ}売ってないよ。)
- ・ドカラ モー ワカランヨーンナツタ。(どこやらもう分からなくなった。)[市史(野中)]

否定中止形「〜ント」または否定仮定形「〜ナ」に「アカン」を続けると「〜しなければならぬ」という義務・必要の意味を表す構文が作られるが、しばしば「アカン」が省略されて否定中止形・否定仮定形単独で義務・必要の意味を表す。

- ・ウンテンシュニ シューギ ワタサナ アカン。(運転手に心付けを渡さないといけない。)[市史(吉)]
- ・アノヒトア ハナシハンブンニ キカナ。(あの人はくいつも大げさないうから>話を半分に分けて聞いて聞かないといけない。)[市史(犬山)]

〈丁寧形〉

丁寧形には2つの形がある。1つは、多段型動詞・「来る」「する」のイ段基幹または一段型動詞の基幹に「マス」を続けた共通語形と同じ「マス」形である。もう1つは、多段型動詞・「来る」「する」のエ段基幹または一段型動詞の基幹に「エス」あるいは「ンス」が付いた伝統的な丁寧形である。ただし後

者の方は少なくとも市街地方言では相当古い形式で、本稿の話者自身、主に周辺の農村部で耳にしたことはあっても自ら使ったことはないという。

「マス」形は「マシタ」(過去形)、「マシヨ」(意志形)「マセン」(否定形)のように活用する。

- ・A: イナハルカネ。B: ウチノワ イマ {オリマセン/イマセン}。(A: <主人の所在を尋ねて>いらっしゃるかね? B: 主人は今いません。)

伝統的な丁寧形は次のように活用する。基幹末母音の長音は脱落あるいは撥音に置換可能。

非過去形 カケ(ー)ス、カケンス
過去形 カケ(ー)シタ、カケンシタ
意志形 カケーシヨ、カケンシヨ、カケシヨ、カケヒョー
推量形 カケツシヤロ
否定形 カケヘン

- ・コーモリガサナオシモ ケーシタシ エカケヤモ ケーシタ。(昔は>こうもり傘直しも来ましたし、鑄掛屋も来ました。)[市史(友江)]
- ・ムカシワ ヨサリッテ ユエシタ。(昔は<夜のことを>「ヨサリ」っていいました。)[市史(柿ヶ嶋)]
- ・チョット ヨンデケヒョー。(ちょっと呼んできましょう。)[市史(本町)]
- ・イマノ コドモワ ハナモヨダレモ ダセヘンネー。(今の子供は鼻汁もよだれも出しませんねえ。)[市史(友江)]

「ある」の丁寧形、つまり「あります」の意味には「アレ(ー)ス」の他「ゴイス」(ございます)も使われる。「ゴイス」の活用形と用例を以下に示す。

非過去形 ゴイス
過去形 ゴイシタ
推量形 ゴイスヤロ
否定形 ゴヘン

- ・ムラホージャ ライゲツ ゴイスンニヤ。(村法事が来月あるのです。)[市史(友江)]
- ・シブウチノクギア ゴヘンカイノ。(四分(厚さ約1.2cm)の板を打つ釘はありませんかねえ。)[市史(木本)]

〈使役形〉

多段型動詞と「する」のア段基幹に「セル」または「ス」、一段型動詞の基幹と「来る」のオ段基幹には「サセル」または「サス」を続ける。「セル」形の使役形は一段型動詞と同様の活用をし、「ス」形は多段型動詞と同様の活用をする。非過去形・過去形ではどちらの形式も使われるが、否定形では「セル」形（「カカセン」「ミサセン」「コサセン」「サセン」等）が使われる。

- ・ナツワ オモ ニント ナマノゴト クワシタ。(夏の間はだいたい飼葉を煮ないで生のまま食べさせた。)[市史(大月)] ※オモ：主として。ゴト：冬、馬に与えるために刈って干した草

〈受身形〉

多段型動詞と「する」のア段基幹に「レル」、一段型動詞の基幹と「来る」のオ段基幹には「ラレル」を続ける。一連の活用形は一段型動詞と同様の活用をするが、過去形「～レタ」はレが促音化した「～ッタ」の形を取りうる。

- ・タローニ ミラレル。(太郎に見られる。)
- ・タローニ {ミラレタ/ミラッタ}。(太郎に見られた。)
- ・タローニ ナガイコト ヘヤニ オラレテ ヨワッタ。(太郎に長い間部屋に居られて困った。)
- ・タローニ ヒデコト サレタ。(太郎にひどいことをされた。)
- ・カマトバニ クイツカッタ。(カマイタチに喰いつかれた。)[市史(中掘)]
- ・コッポリ オコラッタ。(うんと怒られた。)[市史(石谷)]

〈可能形〉

多段型動詞のエ段基幹に「ル」、一段型動詞の基幹と「来る」のオ段基幹に「レル」を付ける。「する」の場合は「デキル」が語彙的に補充される。可能形自体は一段型動詞と同様の活用をする。ただし否定形の場合は多段型動詞のア段基幹に「レン」、一段型動詞の基幹・「来る」のオ段基幹に「ラレン」が付いた形も可能である(以下の例を参照)。

- ・ヒトリデ ユレル。(一人で来られる。)
- ・ヒトリデ {ユレン/ユラレン}。(一人で来られない。)

- ・[前略] テァ コジケテ フデ モテン。(手がかじかんで筆が持てない。)[市史(小矢戸)]
- ・ジョーズバッカ ユーテテモ ヨノナカ ラタラレン。(愛想の良いことばかりいっていても世の中は過ごしていられない。)[市史(犬山)]
- ・マダコレ タベレルワネ。モッタイナイ。(まだこれ、食べられますよ。＜捨てようとするなんて＞もったいない。)[市史(高砂町)]
- ・イトヒクヨーンナッタデ モー タベラレンワノ。(糸を引くようになったから、もう食べられないよ。)[市史(高砂町)]

〈尊敬形〉

多段型動詞・「来る」「する」のイ段基幹、一段型動詞の基幹に「ナハル」または「ナル」を後接させる。ただし「ユー」(言う)についてはウ段基幹に「ナハル」が付いた形「ユーナハル」も可能。次の例文は禁止形の用例ではあるが形式的には尊敬形と同じなのでここに挙げる。

- ・オンナシコト {ユーナハンナ/イーナハンナ}。(同じことを言うな。)

「ナ(ハ)ル」は以下のように活用する。

- 非過去形 カキナ(ハ)ル
- 過去形 カキナ(ハ)ッタ
- 中止形 カキナ(ハ)ッテ
- 仮定形 カキナ(ハ)ッター
- 否定形 カキナ(ハ)ラン

- ・オトーサン カエツキナハッター ツタエトケス。(お父さん＜夫のこと＞が帰って来られたら、伝えておきます。)[市史(木本)]
- ・コンナモン モツキタヤケド ヒトツ タバナハランカ。(こんなもの持ってきたんですが、一つお食べになりませんか。)[市史(下舌)]

語幹末子音が r の多段型動詞は、基幹末の r が撥音になる。

- ・モー アサガタ ナンナハッタ ゴー。(もう明け方になりなされたぞ。)[市史(平沢地頭)]
- ・オヒーサン アガンナハッタ。(お日様が上がりなされた。)[市史(下麻生嶋)]

上の2つの例のように、自然現象に対する尊敬形の使用が伝統的にはよく行われたようである。

〈継続形〉

多段型動詞の基幹音便形、一段型動詞の基幹、「来る」「する」のイ段基幹に「テル」が続く形となる。ただし語幹末子音が g, n, b, m であれば-テルは-デルになる。中止形+「イル」(居る)に由来し、「イル」に準じた活用形を持つ。

- 非過去形 カイテル
 過去形 カイテタ
 命令形 カイテネ、カイテヨ
 否定形 カイテ(エ)ン
 丁寧形 カイテマス、△カイテス
 尊敬形 カイテナハル、カイテナル
- ・アノヒト メッポ アガイテ ハタライテルワ。(あの人、常軌を逸して必死に働いているよ。)[市史(牛ヶ原)]
 - ・ハナコワ キンノカラ ココニ キテル。(花子は昨日からここに来ている。)
 - ・チャイカワデ アソンデヨ。エカイカワ イクナ。(小さい川で遊んでいる。大きな川へ行くな。)[市史(中津川)]
 - ・ミンナ ワッシュエテモタ。ナーモ オボエテン。(すべて忘れてしまった。何も覚えていない。)[市史(養道)]
 - ・エレー ハヨカラ ヤツテナハルノ。(たいそう<朝>早くからやっておられますねえ。)[市史(木本)]

〈希望形〉

多段型動詞及び「来る」「する」のイ段基幹、一段型動詞の基幹に「タイ」が付いた形となる。希望形自体は形容詞と同様の活用をする。

- ・フデデナシニ エンピツデ カキタイ。(筆じゃなくて鉛筆で書きたい。)
- ・キョー テレビ ミタインヤ。(今日はテレビが見たいんだ。)

〈のだ形〉

各種活用形(非過去形・過去形・丁寧形・使役形・受身形・可能形・尊敬形・継続形・希望形)に「ンヤ」または「ンニヤ」が付いた形である。ただし〜ンに終わる否定形・不必要形に対しては「ノヤ」が付く。

- ・ハツユキア イッペン キエテー コンダネユキニ ナルンヤワナー。(初雪は一度消

えて、次に降る雪は根雪になるのだよねえ。)

[市史(今井)]

- ・アソコノア モージキ ヨメサンモラウンニセトイヤ。(あそこの家はまもなくお嫁さんをもらうのだった。)[市史(稲郷)]
- ・ネンガジョーワ カカンノヤザ。(＜喪中の間＞年賀状は書かないんだよ。)

〈不必要形〉

大野市方言には、「〜する必要がない」という不必要の意味を表す形式がある。多段型動詞及び「来る」「する」のイ段基幹、一段型動詞の基幹に「ネバン」を付ける。

- ・キョーワ フロ ワカシネバン。(今日は風呂を沸かさなくてもいい。)
- ・キョーワ ウチニ イネバン。(今日は家にいる必要がない。)

ほぼ同様の意味は「否定形+デ {イー/エー}」(〜しなくても良い)に言い換えて表すこともできる。

2. 形容詞・形容名詞述語・名詞述語の活用の特徴

【形容詞】

形容詞の活用の型は一つである。語幹末母音が a または e である場合、一部の活用形には交替語幹が用いられる。「アカイ」(赤い)を例に挙げると、語幹「アカ」は中止形、否定形、なる形、丁寧形で「アコ」に交替する。ただし「コワイ」(強い)など語幹が「ワ」で終わる場合、語幹末母音の交替は生じない。語幹末母音が e である語は「エー」(良い)1語である。中止形、否定形、なる形、丁寧形および過去形、仮定形で語幹が「ヨ(一)」に交替する。

〈断定非過去形〉

断定非過去形は連体非過去形と同形で、語幹に「イ」を後接させる。

- ・ヤエバワ カワイラシーノ。(八重歯はかわいらしいねえ。)[市史(阿難祖地頭方)]

また「ナイ」>「ネー」(無い)、「ヒドイ」>「ヒデー」(酷い)、「ワルイ」>「ワリー」(悪い)等の母音の融合も生じうる。

〈断定過去形〉

断定過去形は連体過去形と同形で、語幹に「カタ」を後接させる。「エー」(良い)の過去形は「ヨ

カッタ」となる。

- ・ワラワ トートカッタネー。(＜かつては＞藁はくさまざまな細工の材料になったので＞貴重でしたね。)[市史(庄林)]※トートイ：貴重な
- ・キカイ チョーシ ヨカッタデ ハヨ オワレーシタ。(機械＜田植機＞の調子がよかったので、早く終わりました。)[市史(下舌)]

〈推量形〉

推量形は動詞と同様に非過去形に「ヤロ」が付いた形である。否定形に「ヤロ」が付けば否定推量、過去形に付けば過去推量を表す。

- ・ナンタアツイヤロノー。キョーワ。(なんて暑いことでしょうねえ、今日は。)[市史(下打波)]
- ・ソナニ オコランデモ エーヤロガノ。(そんなに怒らなくてもいいじゃないか。)[市史(稲郷)]

〈連体非過去形〉

上述のとおり、断定非過去形と同形である。

- ・カワイラシー ヒト。(愛想の良い人。)[市史(下据)]
- ・コリヤ ナンタヤワコイ ゴハンヤ。(これはまたなんと柔かいご飯だ。)[市史(牛ヶ原)]

〈連体過去形〉

上述のとおり、断定過去形と同形である。

- ・キンノマデ アカカッタ ミガ クロナッテシモタ。(昨日まで赤かった実が黒くなってしまった。)

〈中止形〉

語幹(交替語幹があれば交替語幹)に「テ」が続いた形である。また、語幹末母音が u か o であれば、語幹とテの間に長音が介在する形(「アコーテ」としない形(「アコテ」)両方可能である。ただし語幹が1拍の場合は必ず長音を伴い、語幹末母音が i であれば長音を伴わない。

- ・コノカミワ {アコテ／アコーテ} アノカミワ シロイ。(この紙は赤くてあの紙は白い。)
- ・ユキヤ ノーテ ラクナ ショーガツデスノー。(雪がなくて楽な正月ですね。)[市史(木本)]

- ・イソガシテ ヒヤクショーノコドモア ボンナゲヤデ。(＜百姓の親は＞忙しくて、自分の子供をほったらかしにしておいたから。)[市史(阿難祖地頭方)]

〈仮定形〉

語幹に「カッタラ」を後接させた形である。

- ・モシ ミガ アカカッタラ トッテモ イー。(もし実が赤ければ取っても良い。)

〈否定形〉

語幹(交替語幹があれば交替語幹)に「ナイ」または「ネー」が続いた形である。ただし語幹が1拍の場合は必ず語幹末に長音を伴い、語幹末母音が i であれば長音を伴わない。否定形は形容詞「ナイ」(無い)と同様の活用をする。

- ・スイカノ イチバンナリワ カトテ ンモナイワイヤ。(スイカの一番なりは固くておいしくないよ。)[市史(稲郷)]※イチバンナリ：最初に実った果実
- ・タカイリシナハッタデ アシタワ アンマリヨーネーヤロ。(＜お日様が＞高入りしなされたから、明日はあまり＜空模様＞がよくないだろう。)[市史(森本)]※タカイリ：太陽が沈むとき山際まで下りず山の上にかかった雲の中に姿を消すこと
- ・オイシネーカモ ワカレヘンザー。(おいしくないかも分かりませんよ。)[市史(本町)]

〈なる形〉

語幹(交替語幹があれば交替語幹)に「ナル」が続いた形である。語幹末母音が i であれば長音は伴わない。なる形は動詞「なる」と同様の活用をする。

- ・{アコーナッタラ／アコナッタラ} タベレルヨ。(赤くなれば食べられるよ。)
- ・コワナッテシモタ。(＜ご飯が＞硬くなってしまった。)
- ・ホメラレテ ウレシナル。(誉められて嬉しくなる。)
- ・ヘラトナーッテル。(平坦になっている。)[市史(牛ヶ原)]※ヘラタイ：平たい
- ・トシマエナッタデ サムナッタ。(年末になったから寒くなった。)[市史(深井)]

語幹が1拍である場合、基本的には中止形や否定形のように語幹の母音が長呼されるが、語幹や活用

形の種類によっては長音が脱落した形も可能である。

- ・シナモンガ {ノ一ナル／ノナル}。(品物がなくなる。)
- ・シツガ {ヨ一ナル／×ヨナル}。(質が良くなる。)
- ・シツガ {ヨ一ナツタ／ヨナツタ}。(質が良くなった。)

〈丁寧形〉

丁寧形には2つの形がある。1つは、非過去形に「デス」が付いた形である。否定形に「デス」が付けば否定形の丁寧形、過去形に付けば過去形の丁寧形を作る。もう1つは、語幹(交替語幹があれば交替語幹)に「ゴイス」(ございます)を続けた形である。

- ・{アカイデス／アコゴイス}。({赤いです／赤うございます。})
- ・{アコナイデス／アコゴヘン}。({赤くないです／赤うございせん。})
- ・アトデ カケサシテモライマスデ エーデス カノー。(後で<こちらから電話を>掛けさせてもらいますから、<それで>よろしいですかねえ。)[市史(東山)]
- ・オカトゴイスカ。(お元気ですか。)※カタイ：健康な
- ・マダマダ ヨ一ゴイスワイネ一。(まだまだよろしいですよ。)[市史(木本)]
- ・アリガトゴイシタ。(ありがとうございました。)

〈のだ形〉

各種活用形(非過去形・過去形・否定形・なる形・丁寧形)に「ンヤ」または「ンニヤ」が付いた形である。

- ・カラスガエ オキテ イテ一ンニヤ。(こむら返りが起こって痛いんだ。)[市史(今井)]
- ・ヤスモンヤデ キニシエントイテ一。ツコテモラウト ウレシ一ンニヤ。(安物だから気にしないでおいて、使ってもらいと嬉しいんです。)[市史(本町)]

【形容名詞述語・名詞述語】

〈断定非過去形〉

断定非過去形は、形容名詞・名詞に「ヤ」を付す。

- ・ヨルン ナルト シズカヤネ。(夜になると静

かだね。)

- ・イネカリワ イマワ タダ ラクヤケド ノ一。(稲刈りは今日はまことに楽ですけどねえ。)[市史(犬山)]
- ・アンタントコマデ アノハナシ イツテタノ一。ナイショヤト オモタケド。(あなたのところまであの話が伝わっていたの。内緒話だと思ったけど。)[市史(下舌)]

〈断定過去形〉

断定過去形は連体過去形と同形で、形容名詞・名詞に「ヤッタ」を付した形となる。

- ・トーワ カワ キレーヤッタデ コメ トグンデモ オチャ ワカスンデモ ミンナカワヤッテンデネ一。(以前は川がきれいだったから、米を洗うのでもお茶を沸かすのでも皆、川の水だったのだからねえ。)[市史(中津川)]
- ・コンドノタイフーワ タツミカジェヤッタ ナ一。(今回の台風は異風だったなあ。)[市史(森本)] ※異風：異(南東)の方向から吹いてくる強い風

〈推量形〉

形容名詞・名詞に「ヤロ」を付す。

- ・ヤマンナカヤト モット シズカヤロ。(山の中だともっと静かだろう。)
- ・タローワ マダ ガクセ一ヤロ。(太郎はまだ学生だろう。)

〈連体非過去形〉

形容名詞述語の非過去形にのみ断定形と連体形の区別がある。連体非過去形は、形容名詞に「ナ」を付す。名詞には述語としての形はなく助詞「ノ」を用いた表現となる。

- ・ユキヤ ノ一テ ラクナ ショ一ガツデスノ一。(雪がなくて楽な正月ですね。)[市史(木本)]
- ・イマモ ガクセ一ノ トモダチ。(今も学生である友達。)

〈連体過去形〉

上述のとおり、断定過去形と同形である。

- ・シズカヤッタ ヘヤガ ヤカマシナツタ。(静かだった部屋がうるさくなった。)

〈中止形〉

中止形は形容名詞・名詞に「デ」を付す。

- ・イツモ シズカデ オトナシシテル。(いつも静かで大人しくしている。)
- ・アノヒトァ オシヤカガ スキデー。(あの人は人の世話が好きでねえ。)[市史(犬山)]
- ・アコノニワワ クサ ボーボーデ ミタムナイノー。(あそこの家の庭は、草が生えほうだいでみっともないねえ。)[市史(中津川)]

〈仮定形〉

形容名詞・名詞に「ヤッタラ」または「ナラ」を付す。

- ・モット シズカヤッタラ ネレルノニ。(もっと静かだったら寝られるのに。)
- ・タローガ {ガクセーヤッタラ/ガクセーナラ} コノシゴトワ {タノメン/タノマレン}。(太郎が学生ならこの仕事は頼めない。)
- ・フタミョートナラ アコノワ ヨニンデマヤト ユータ。(＜1軒の家に＞働ける親夫婦と子供夫婦がいれば、「あそこの家は4人手間だ」といった。)[市史(東中)]

〈否定形〉

形容名詞・名詞に「デ」を付し「ナイ」(無い)を続ける形である。否定形自体は「ナイ」(無い)と同様の活用をする。なお名詞の場合は「～ト チガウ」を用いた表現も可能である。

- ・タローワ モー {ガクセート チガウ/ガクセーデナイ}。(太郎はもう学生じゃない。)
- ・A: アラ ヤマダハンデナインカノー。 B: アラ アンタカー。(A: あら、山田さんでないんですかねえ。B: あら、あんただったのか。)[市史(下打波)]

〈なる形〉

形容名詞・名詞に「ン」を付し「ナル」を続ける形である。なる形は動詞「なる」と同様の活用をする。

- ・タクワン ダイトイタラ カリカリンナッタ。(沢庵を＜食卓に＞出したままにしておいたら、＜水気を失って＞カリカリになった。)[市史(平沢地頭)]
- ・ヤット チートァ ラクンナレシター。(やっとな、少しは楽になりました。)[市史(木本)]
- ・シトリ クリナンカワ クードンナッテ

クサルンデス ワ。(自然に栗の木などは中が空洞になって腐るんですよ。)[市史(篠座)]

〈丁寧形〉

形容名詞・名詞に「デス」を付す。「デス」自体は以下のように活用する。

- 非過去形 デス
- 過去形 デシタ
- 推量形 デッシャロ (＜デス+ヤロ)
- 仮定形 デシタラ
- のだ形 デスンニヤ

- ・ナガイコト ヨー ミタゲナハッテ タイヘンデシター。(長い間、よく看病してあげなさって、たいへんでしたね。)[市史(五條方)]
- ・ナンカ ヨージデスカノー。(何か用事ですか。)[市史(木本)]
- ・ナンデッシャロ。(何でしょうか。)[市史(木本)]
- ・オンナノコデスンニヤ。(女の子なんですよ。)[市史(五條方)]

〈のだ形〉

形容名詞・名詞に「ナンヤ」または「ナンニヤ」を付す。

- ・ヨルワ {シズカナンニヤ/シズカナンヤ}。(夜は静かなんだ。)
- ・ダスノァ シタダスノモ イヤナンヤデ。アコノウチワー。(出すものは舌を出すのもいやなんだから。あの家は。)[市史(今井)]

用例出典

市史:大野市史編さん委員会編(2006)『大野市史 第12巻 方言編』大野市役所

参考文献

- 天野義廣(1997)「福井県大野市方言の待遇表現」『方言資料叢刊』7, 73-82.
- 加藤和夫(1992)「福井県方言」平山輝男ほか(編)『現代日本語方言大辞典』明治書院
- 東条操(1954)『日本方言学』吉川弘文館
(松倉昂平)